

# 4 4 めまぐるしく 変わった行政区分

3府72県から3府35県に統合され、  
再び分県を認めて  
現在の47都道府県になる。

## 廃

藩置県を断行したとはいえ、藩を県に置き換えただけというのが実情で、各県の人口や面積、財政規模などには著しい格差があった。まずそれを是正しなければならぬ。一県あたりの人口を増やし、財政力を強化する必要もあった。政府は試行錯誤を繰り返しながら、府県の統廃合を急ピッチで進め、廃藩置県から4ヵ月後の1871（明治4）年11月、3府302県を3府72県に統合した。府県の数が一気に4分の1に激減したのである。

が、余りにも早急な再編作業であったため、文化的経済的なつながりの強い地域が分断されたり、これまでまったく交流のなかった地域と同じ枠組みになったりするケースも出てきて、それが後々になって地域紛争の火種になった。

3府72県に統合しても、まだ財政基盤の整っていない県もあった。それら脆弱な県の財政力を強化し、健全な地方行政ができる体制を確立させなければ、政府が目指す中央集権国家の建設は夢物語に終わりがかねない。そこで、さらなる統廃合が行われ財政力の乏しい県を、隣県に併合した。

そして、5年後の1876（明治9）年までに、3府72県がその半分の3府35県になったのである。  
現在の47都道府県と比べてみると、行政区分がまったく同じなのは東北地方だけである。この大胆ともいえる県の統廃合は、各地域の事情を無視して行われたため、各地で住民の不満が噴出した。住民感情を無視すれば、政治を混乱させて地方制度が崩壊しかねない。それは中央集権体制の弱体化を招き、国にとっても大きな損失になる。この動きに危機感を持った政府は、各地域の事情によっては分県も認めるという方針転換を打ち出した。

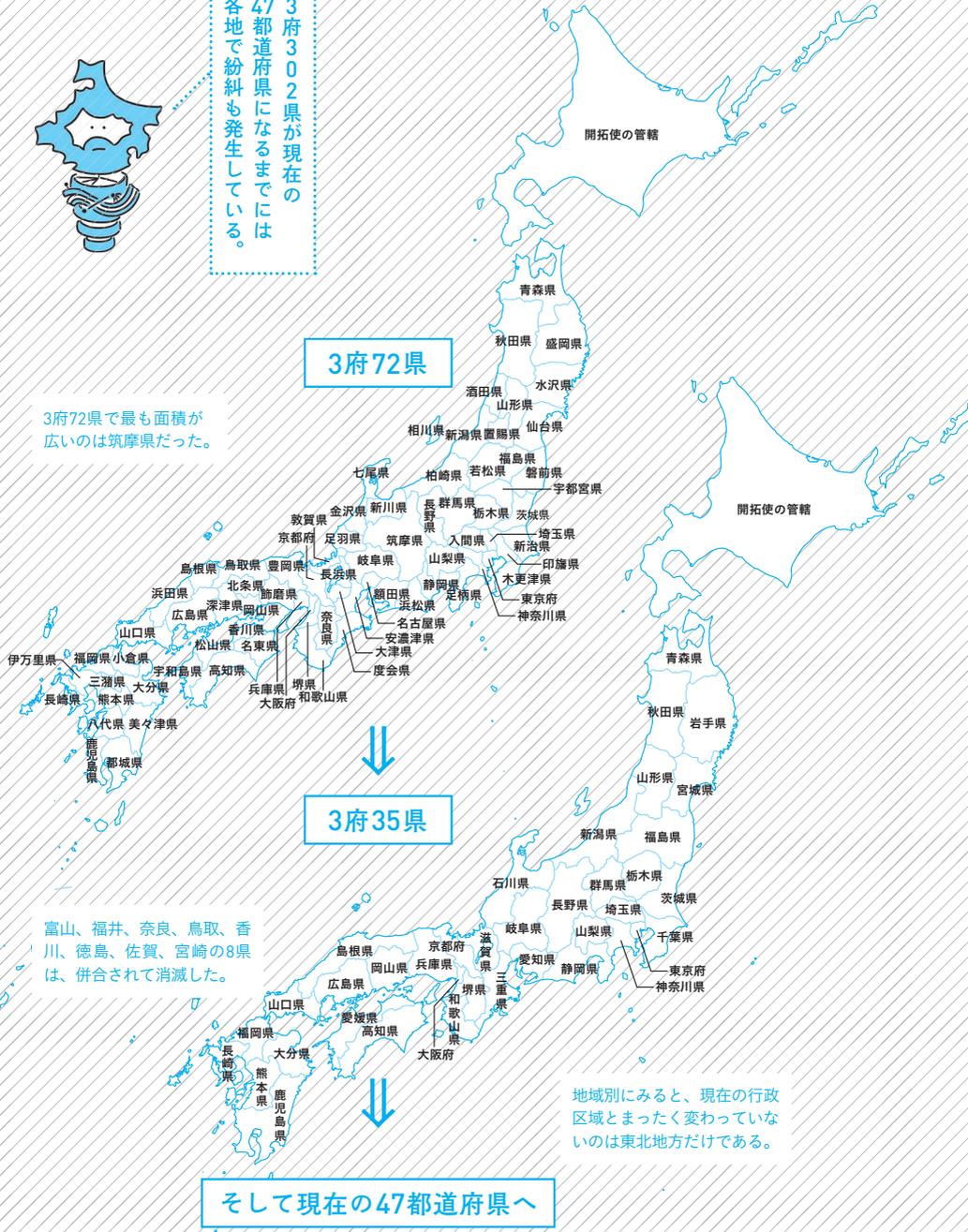
これによって、いったん消滅した県が次々に復活を果たし、1888（明治21）年に香川県が復活したことで再編作業に終止符が打たれた。しかし、東京府が東京都になったのは1943（昭和18）年、北海道に府県と同等の自治権が与えられたのは戦後の1947（昭和22）年、現在の47都道府県になったのは、沖縄が日本に復帰した1972（昭和47）年のことである。

## 3府72県⇒3府35県⇒ 47都道府県

3府302県が現在の47都道府県になるまでには各地で紛糾も発生している。



3府72県で最も面積が広いのは筑摩県だった。



地域別にみると、現在の行政区分とまったく変わっていないのは東北地方だけである。

そして現在の47都道府県へ